



2004.7.16
第124号

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

発行
福島県市町村
教育委員会
連絡協議会
北会津支会
耶麻沼支会

『天知る地知る人知る我知る』

会津教育事務所長

永嶋 啓一

この四月から、各学校では、職務倫理委員会を中心に不祥事の絶無に向けて実効ある取組をいただいていると思います。我々は教育公務員として、一社会人として「あたりまえのことをあたりまえにやる」ことをしっかり確認していきたい。今回は、通知等を活用するに止まらず、不祥事防止にむけて独自の啓発資料を作成し、意識化

をはかっている会津の新任校長の実践例を紹介して、各学校の創意ある取組にご期待申し上げます。



生涯学習だより

[平成16年度生涯学習課重点事項]

本年度も福島県教育庁生涯学習領域の各グループと連携を密にし、次の点を重点に取り組みながら、学社連携・融合の一層の推進に努めますので、ご理解・ご協力をお願いします。

1 県民カレッジ整備事業(新規)

県民の高度化・多様化する学習ニーズや生活圏の拡大に伴う学習活動の広域化に対応するため、県民カレッジ「ふくしま学習空間 夢まなびと」を本格的にスタートし、県、市町村、大学等高等教育機関、NPO及び民間事業者と連携を図り、体系的な学習機会を提供する。

- ①年度別課題設定講座(夢まなびと講座)
「環境」「福祉」を基本テーマに、前期2講座(2地区)、後期2講座(2地区)を実施。
1講座5回程度(1回2時間程度)
- ②地域講座(まなびとオリオン講座)
県立博物館、会津自然の家と連携し、会津の歴史・民俗を学ぶ「会津学」を開催する。
1講座3回程度(1回2時間程度)
- ③インターネット配信講座
受講者のペースで学べる「オンデマンド型学習」の手法をとり、年間4講座程度を実施。
1講座5回程度(1回20分程度)
- ④市町村広域連携講座
21市町村から31事業を提供いただき、会津域内のみならず、90市町村の広域的参加を目指した相互交流を支援する。

2 体験活動・ボランティア推進センター事業

この事業は本年度3年目を迎え、特に市町村の推進体制整備を促進するとともに、青少年の体験活動・ボランティア活動の充実が図れるよう情報提供やコーディネートに努める。

- ①地域センター(会津教育事務所内)事業
 - 地域センター協議会(年2回開催)
 - 学校と地域を結ぶコーディネーター学習会(年1回)
 - 学習ボランティア人材登録会(年1回)
 - 教育ボランティア研修会(年1回)
- ※地域センター・コーディネーター
 - 生涯学習課 栗村良輔社会教育主事
 - 指導課 中村幸裕指導主事
- ②青少年活動を支援する3つのボランティア
 - 学習ボランティア
 - 教育ボランティア
 - 病院訪問学習支援ボランティア

随時、人材登録に努めるとともに、各学校・社会教育施設等の要請に応じ、人材活用を支援する。

- ③市町村の推進体制整備
本年度新たに8町村に支援センターが立ち上がり、すべての市町村に整備される。
- ④各学校での推進体制整備
 - 人材についての調査(年1回)
 - 体験活動・ボランティア活動状況調査(実施計画・実施報告)(年2回)

3 子どもの居場所づくり推進事業(新規)

放課後や週末等に学校や公民館等を活用して子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所を確保し、様々な体験活動や交流活動を通して、次代を担う心豊かでたくましい子どもたちを地域全体で育む事業を支援する。(磐梯町・熱塩加納村・山都町・西会津町・会津本郷町・三島町)

4 親育て・子育てサポート事業

多様な家庭教育上の課題に対する学習機会の拡充を図るとともに、地域社会全体での子育て支援に向けた環境づくりを支援する。

- ①家庭教育地域フォーラム(会津坂下町)
- ②子育てサポーター養成研修会
(喜多方市・会津坂下町)

5 家庭教育子育て支援推進事業(新規)

思春期の子を持つ親や大人が、十代の子どもの性の現状を認識し、十代の子どもの心と体を支え育むために、セミナーを開催する。

- 性・いのち・心豊かに思春期教育セミナー
(田島町御蔵入交流館)

6 子ども読書活動推進事業(新規)

読書を通して親子のふれあいを深め、読書への関心を高めるとともに、家庭における読書活動推進のための支援に努める。

- 親子ふれあい読書ステーション
(喜多方プラザ文化センター)

地域教育相談推進事業の活用を

この事業は、乳幼児から在学中の障害のある子どもやLD、AD/HD等特別な支援を必要とする子どもの保護者、担当教員等を対象にした支援事業で昨年度にスタートしました。会津地区の昨年度における相談状況は次のとおりでした。

●受付件数(対象者の延べ人数)

幼・保育園児	14	小学生	50
中学生	5	高校生	4

●相談内容(同)

適切な対応・指導の在り方	49
発達検査の実施	4
校内研修会での助言等	2
その他	18

障害のある子どもの『困り感』に気づき、適切に対応することは、その子どもの安心した生活のみならず、すべての子どもにとり大切なことです。

この相談事業は、会津地区では5名の巡回相談員が担当しています。ご活用ください。

申込先 0242(29)5486 または 0120-899-714

地域に学ぶ

白山沼のイトヨと生息地整備事業

北会津村

豊かな自然と美しい環境を継承し、村のシンボルとしてまた新しい交流の場として、白山沼及びその周辺の整備が進められてきました。

福島県指定の天然記念物イトヨが生息する白山沼は、村の中央部北側に位置し、村の「ふるさと自慢の観光振興資源」の一つとして村民はもとより多くの関係者から関心が寄せられています。

イトヨは日本の限られた地域にしか生息しない珍しい魚で、背に三本、腹部に2本のトゲがあり、湧水池周辺に生息し水草などで巣をつくります。産卵期になると雄が婚姻色になる習性があります。

県では、地域用水環境整備事業に着手、沼周辺を公園化しベンチやトイレ・街灯等が整備され、木々や草花を植栽し季節ごとの楽しみが深まりました。また沼には公募により命名した「二千年橋」が架けられ白山沼がより親しまれるようになりました。イトヨを観察しながら水性植物や植栽をも観察できます。

これにより白山沼周辺の環境が一変し、誰もが気軽に散策でき、また学校教育・社会教育での自然環境学習にも活用できる施設として大いに期待をしております。



二千年橋が架けられた白山沼

学校における軽度発達障害児に対する支援の流れ

実態を捉える

○子どもの課題を捉えるにあたっては、状況を正しく把握することが大切です。

その際、子どもがさまざまな課題に直面して、どのような点に困り、悩み、苦しんでいるのか、子どもの視点に立った捉え方が重要になります。

○「…ができる」「…が好きである」等プラス的な見方で捉えてみることも大切です。

○専門家チームによる検査等はその後の指導に役立てます。

判断

○子どもの課題を理解するにあたっては、状況をよく分析・整理する必要があります。

例) 学習上の困難さか、衝動のコントロールの悪さか、状況認知の悪さか、こだわりか 等

○またその背景は、育ち方や性格などに起因するのか、不適応なのか、障害に基づくものか等を見極めます。

(障害の診断は、医師に委ねることになります)

教育的対応

○課題への教育的対応(支援)にあたっては、子どもの「特別な教育的ニーズ」に対応した支援方針、支援策を明確にすることが大切です。
例) 増やしたい行動、減らしたい行動、制限が必要な行動 等

○『個別的教育支援計画』・『個別の指導計画』を作成します。

○学級全体の支援バランスに配慮することも大切になります。

○また、学校全体で対応することや学校以外の関係機関等と連携することが重要です。

私の抱負



磐梯町立 磐梯第二小学校 校長 山内正吉

当たり前のことを 当たり前に

「私は、ここの女将としてこれまでたくさんの修学旅行生を受け入れてきましたが、こんなに素晴らしい子どもたちは本当に初めてです。お世辞ではありません。従業員までもが感心しているのですから。」 先日、磐梯一小との連合修学旅行で、宿泊先のホテルの女将さんがわざわざ朝食の会場にお出でになってこのように声をかけてくださいました。これほどまでに褒めていただけると悪い気はしないものです。事実、私たちの目から見ても、本当に素晴らしい子どもたちの言動と態度であり、子どもたちから多くのことを学んだ修学旅行でした。 これからも当たり前のことを当たり前にできる子どもたちを、保護者や地域と共に育てていきたいと思えます。



昭和村立 昭和小学校 教頭 佐藤恵子

地域とともに

幾つかのスノーシェッドを潜り通り抜けると、白糸の滝となって山から流れ落ちてくる雪解け水に迎えられ、清き流れの野尻川に沿って走ると土手には福寿草の花の群れ。 美しい大自然の中で勤務できることの喜びと、教頭としての重責に身が引き締まった赴任第一日目でした。 からむし織の里でも知られる昭和村は、ここ数年の間に児童数が急激に減り過疎化が進んでいます。子どもたちの目はきらきらと輝き、からむしやかすみ草の栽培など昔と今をうまくマッチさせた活力ある村です。郷土を愛し、より遅く生きる子どもたちを育むよう、保護者や地域の方々と連携し、小規模校の利点を生かした学校経営に努めていきたい。



喜多方市立 第三中学校 教諭 関根美恵子

私の目標

新任教員として勤務して二ヶ月が経った。忙しい中にも先輩の先生方に支えていただきながら、生徒と共に楽しく充実した毎日を送っている。 初任者としての私の目標は次の二つである。 一つ目は、授業を大切にすることである。毎時間の教材研究をしっかりと行い、基礎・基本をおさええた分かる授業、楽しい授業を展開する。そして、常に指導の評価、改善を図る。 二つ目は、生徒との信頼関係を築くことである。生徒と共に何ごとにも情熱を傾けた。また、生徒理解に努め、少しの進歩も見逃さず、よさを賞賛していきたいと思う。 失敗も多々あるが、生徒の笑顔、真摯な姿を見ると力が湧いてくる。初心を忘れず、精一杯努力していきたい。

作品と指導

絵



『木に登って遊んだよ』 会津若松市立東山小学校 4年 浅野聡美

大きな木に登って遊んでいる様子を表現しています。

ハンモックに寝そべったり、鳥と遊んだりする様子を楽しく描くことができました。夕日と山の緑のコントラストをとてもきれいに表現することができました。

指導者 木村 毅

習字



『湖』 会津坂下町立坂下小学校 6年 高畑 舞

学習のはじめの段階で試しの一枚を書き、自分の字の問題点を明らかにしてから課題意識を持って取り組みました。「し」「む」「月」の三つの部分のバランスに気をつけて練習しました。

指導者 宗形 香代子

工作



『紙ひもを使った器の制作』 北達原村立第一中学校 3年 佐藤将人

制作の初めの段階では発想が平面的でしたが、徐々に立体表現への意識を持つようになってきました。丁寧に紙ひもを一本一本接合する作業でしたが、粘り強く取り組み、単純な形であっても美的に制作することができました。

指導者 荒川典子